

令和4年度 小浜美郷小学校 学校評価

1 回答数	児童アンケート	313 (7名欠席)
	保護者アンケート	318 (99%)
	教職員	22 (100%)

2 評価方法 選択肢による4段階評価

A:よくあてはまる

B:どちらかと言えばあてはまる

C:どちらかと言えばあてはまらない

D:あてはまらない

★AとBの合計を『肯定的評価』、CとDの合計を『否定的評価』とした

3 結果 別紙

4 考察

(1) 確かな学力について

今年度は「仲間と学びをひらく～仲間との対話でつながる子どもの育成～」という研究テーマのもと、情報を活用する力が伸びる授業、児童の主体的な発言がどんどんつながっていく授業などのあり方を探ってきた。

友だちとつながって発表することが楽しいかどうか、という項目 ① の肯定的評価は、昨年度より4ポイント下がり、83%であった。教職員は「主体的な発言を引きだそう」「児童の発言がつながるようにしよう」と日々努めており、教職員の肯定的評価は100%であったが、児童との間にギャップがあった。自分の興味関心をもとに、とことん調べたり考えたりすると、わかったことや考えたことが自分の中で「飽和状態」となり、「みんなに伝えたい」「みんなはどう思っているのか知りたい」と思うようになる。それが、主体的な発言や児童の発言のつながりという形で現れる。主体的な発言を引き出したり、児童同士の発言をつなげたりしようと授業の工夫をすることはもちろんであるが、児童一人一人が人に伝えたくてたまらないというような深い学びになるよう、研究を進めていかなければならない。

読書 ② についてである。昨年度は、「わたしは、3月までに読書目標を達成できる。」という項目を設定し、肯定的評価は68%であった。家庭・地域・学校協議会での助言を受け、今年度は「私は読書が好きだ。」という項目に変更した。肯定的評価は79%で、昨年度と比べると非常に高い結果となった。読書が嫌いだから読む量が少ないのだと結びつけて考えしまうところだが、そうではないといえそうである。読書は人の生き方に触れたり、興味のあることを追究してさらに好奇心や探究心を高めたり、自分の中で物事の考え方を形成したりできるとも魅力的なものである。ただ、目標

に追われて読むのは決して楽しいものではない。今後は、例えば、授業の中で登場人物の生き方や考え方、名言などに触れたり考えたりする活動を積極的に取り入れたり、教員自身が児童と一緒に読書を楽しんだりしながら、本に興味を持って読書を楽しむ児童を育てていきたいと考えている。読みたいと思った本を自分のペースで読むからこそ、本が人生のパートナーになっていくのだという認識を持ち、児童と本をつなげていきたい。

(2) 豊かな心について

異学年交流やあいさつ、そうじなどを、教育活動の大切な柱に位置づけて取り組んできた。

自己有用感の項目 ③ は、前回は3ポイント下回り、74%となった。今年度は、新型コロナの影響で、学年の枠を越えた取組がかなり制限された。これまで定期的に行ってきたペア学年での活動を取りやめたり、縦割り掃除を中止して学年別掃除にしたりした。児童は、立場や年齢の異なる相手と交流する場面が減り、自己有用感を感じる機会が少なくなったのだと思われる。そんな中でも、この項目で肯定的評価の割合が比較的に高かったのは6年生である(82%)。異学年交流の機会が減ったとはいえ、学校のリーダーとして、学校全体のことや下学年の児童のことを考えながら様々な行事や活動を作り上げてきた。来年度は、新型コロナを取り巻く状況を考えながらではあるが、異学年の交流を充実させていきたい。

(3) たくましい心身について

年間を通して業間運動に取り組んでたくましい体と心を育てること、また自身の健康に関心を持ち、基本的な生活習慣を確立すること、さらに食への関心を高めることを目標にして取組を進めてきた。

トコトタイムやマラソン大会等の取組 ④ についての児童の肯定的評価は91%で、昨年度より3ポイント上がった。教職員もこの教育活動では高い自己評価をしている(93%)。ただ頑張らせるのではなく、何のために活動するのか、何を目標として取り組むのかを、児童に丁寧に考えさせながら取り組んできた成果だと考える。

食に関する項目 ⑤ の肯定的評価は、児童が昨年度より4ポイント上がって86%、保護者が6ポイント上がって77%であった。学級での日々の指導のほか、給食だより、おはしビンゴ、お魚めいろ、お魚ペロリコンテストなどこれまでの指導の積み上げが功を奏していると考えられる。田植えや稲刈り、カントリーエレベーターの見学、食文化館での水の学習など、「ふるさと小浜の食」について、総合的な学習の時間でも十分に学習している。今後も食に関わる一つ一つの取組を充実させていきたい。

(4) 信頼される学校について

学校教育目標の「～すべての子どもたちが安心して楽しく通える学校を目指して～」の評価にあたるのが、「わたしは、学校に通うことが楽しい。(児童)」「うちの子は、楽しく学校に通っている。(保護者)」の項目 ⑥ である。保護者アンケートでは、昨年度と変わらず97%の肯定的評価を得

たが、児童アンケートの肯定的評価は昨年度から4ポイント減少し88%となった。

本校の教職員は、すべての子どもたちが安心して楽しく通える学校づくりを常に意識しながら子どもたちに関わっている。子どもたちに対して、厳しく接することも当然あるが、全体的には受容的で、数値の高かった昨年度と同じように、穏やかに接し、安心できるような関わりや環境作りをしてきた。

その中で、評価が下がった。子どもたちにとって穏やかに過ごせる環境はとても大切であるが、それだけでは十分ではないと考える。「自分で考える」「自分で決めて行動する」「自分たちの行動で学級や学校が変わっていく」そういった経験の積み重ねの中で、達成感や充実感を感じられるようにしていくことがとても大切である。

本校スクールプランのめざす学校像の中に「子どもにとって楽しく誇りが持てる学校」とある。教育活動を充実させる上で、この「誇りが持てる」ということがキーになるのではないかと考えている。自分に、学級に、そして学校に誇りが持てる、そういった教育活動の在り方を探るため、先日から、職員研修の時間等を活用して全教職員で教育活動の見直しを始めている。引き続き、子どもたちが通うことが楽しいと感じる学校づくりに力を入れる。

R4 児童アンケート結果

%

R4 保護者アンケート結果

%




R4 教職員アンケート結果

%

項目	評価項目	今年度 数値目標	A+B	R3	R2
			児童	A+B	A+B
確かな学力	① 私は、友達の発表を聞き、つなげて発表することが楽しい。	85	83	87	83
	私は、授業がよくわかる。	90	91	90	88
	② 私は読書が好きだ。 <small>(昨年度:わたしは、3月までに読書目標を達成できる。)</small>	80	79	68	67
豊かな心	③ 私は、学級や縦割り班で人の役に立っていると感じる。	80	74	77	67
	私は、自分から元気なあいさつをしている。	90	85	89	
	私は、さわやかそうじに進んで取り組んでいる。	95	93	94	95
たくましい心身	④ 私はトコトタイムで時間いっぱい取り組んだり、マラソン大会や縄跳び大会の目標に向かって力いっぱいがんばったりした。	95	91	88	93
	げんきアップカードで、早寝・早起き・朝ご飯、ノーメディアを守って生活している。	85	84	85	78
	⑤ 私は、正しく箸を持ったり魚をきれいに食べたりしようと、努力した。	70	86	82	84
信頼される学校	⑥ 私は、学校に通うことが楽しい。	100	88	92	98

項目	評価項目	A+B	R3	R2
		保護者	A+B	A+B
確かな学力	うちの子は、授業が楽しいと言っている。	87	89	84
	うちの子は、授業がよくわかると言っている。 <small>(昨年度:うちの子は、学習内容を理解している。)</small>	86	88	87
	うちの子は、読書が好きだと言っている。 <small>(昨年度:うちの子は、本に興味を持ち、読書に取り組んでいる。)</small>	63	59	59
豊かな心	うちの子は、家庭・地域で進んで元気なあいさつをしている。	75	76	76
	うちの子は、基本的な生活習慣を身につけようとしている。 <small>(昨年度:うちの子は、「げんきアップカード」の活用により、基本的な生活習慣-早寝・早起き・朝ご飯-の確立が進んでいる。)</small>	89	79	76
たくましい心身	うちの子は、正しく箸を持ったり魚をきれいに食べたりしようと、意識している。	77	71	66
	うちの子は、楽しく学校に通っている。	97	97	94
信頼される学校	学校公開や学校からのお便り等から、学校の取り組みや考え方がわかる。	96	96	94

項目	評価項目	A+B	Aのみ
		教職員	
確かな学力	育成を目指す資質・能力(特に情報活用能力)を明確にした授業づくりに努めた。	83	17
	児童の主体的な発言を引き出し、児童同士がつながる授業づくりに努めた。	100	44
	子どもたちが分かりやすいように、3S学習をベースにした授業づくりを行った。 <small>(昨年度:子どもたちが分かりやすいように、工夫して授業を行った。)</small>	88	25
	読書が好きな児童を増やすために、読書の推進を図る取り組みを行った。 <small>(昨年度:読書目標の達成に向け、読書活動の充実を図る指導を行った。)</small>	86	14
豊かな心	学級・学年・縦割り班の活動を通し、仲間とのつながりを実感できる活動の充実を図った。	100	67
	自己有用感を高めるため、仲間や集団の役に立つ実感を味わえる機会を設定した。	94	47
	学校・地域で元気なあいさつができるよう、継続した指導を行った。	89	39
	さわやかそうじに意欲的に取り組めるよう、工夫して指導を行った。	93	40
たくましい心身	ランニングや縄跳びの目標回数を立てたり、体育的行事の目標達成のためにトコトタイムに一生懸命に取り組んだりする指導を行った。	93	40
	げんきアップカードを有効に活用し、基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ご飯)の確立を図った。	93	53
	情報モラルの指導を行った。	93	43
	箸の使い方や食事のマナーなどについて継続した指導をした。	64	29
信頼される学校	子どもの思いや考えを尊重し、子どもが安心して楽しく学校に通えるような教育活動を行った。	100	53
	学校公開やお便り、連絡帳などで、教員の思いや児童の様子などを発信した。	83	44

 は、児童の数値目標より5ポイント以上低い
 は、R3よりも5ポイント以上上がっているもの
 は、R3よりも5ポイント以上下がっているもの

児童の数値目標よりも低いものは、